

## 産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 横田 誠二

- I 開催年月日 令和元年 6 月 24 日（月）
- II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 2 時 24 分
- III 出席委員等
- |         |                             |        |       |
|---------|-----------------------------|--------|-------|
| 〔出席委員〕  | ◎横田 誠二                      | ○筏井 哲治 | 高瀬 充子 |
|         | 高岡 宏和                       | 酒井 善広  | 上田 武  |
|         | 福井 直樹                       | 狩野 安郎  | 畠 起也  |
|         | (◎…委員長 ○…副委員長)              |        |       |
| 〔議長〕    | 狩野 安郎（委員として出席）              |        |       |
| 〔副議長〕   | 坂林 永喜                       |        |       |
| 〔説明員〕   | 別紙名簿のとおり（根上都市創造部次長は公務のため欠席） |        |       |
| 〔委員外議員〕 | 角田 悠紀                       | 中村 清志  |       |
| 〔事務局職員〕 | 安東 浩志                       | 松本 武司  | 室川 弘昭 |
|         | 六土 幸拓                       |        |       |
| 〔傍聴者〕   | なし                          |        |       |

### IV 審査の概要

#### 1 付託議案について

- 議案第 93 号 令和元年度高岡市一般会計補正予算（第 1 号）のうち本委員会所管分
- 議案第 96 号 令和元年度高岡市下水道事業会計補正予算（第 1 号）
- 議案第 100 号 高岡市森づくり基金条例
- 議案第 105 号 高岡市地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律第 9 条第 1 項の規定に基づく準則を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第 107 号 工事請負契約の締結について（下伏間江福田線立体交差整備その 1 工事）
- 議案第 108 号 工事請負契約の変更について（（仮称）戸出西部金屋産業団地南工区敷地造成その 1 工事）
- 議案第 109 号 工事請負契約の変更について（（仮称）戸出西部金屋産業団地北工区敷地造成工事）
- 議案第 110 号 財産の取得について（土地）
- 議案第 111 号 財産の取得について（公営バス車両）
- 議案第 112 号 市道路線の認定及び廃止について

以上、予算議案 2 件、条例議案 2 件及びその他議案 6 件の計 10 件について、審査の結果、全会一致で、いずれも原案の可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑等は次のとおり。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【議案第 93 号のうち金屋鋳物師町工房（仮称）整備事業費について】

- 金屋町では新たに飲食店がオープンするなど、活性化が見られるが、周辺では駐車場が慢性的に不足している状況にあると聞いている。金屋鋳物師町工房（仮称）の整備に併せ、その対策は検討されているのか。
- △ 金屋町においては、新規に店がオープンするなど、活性化の動きを見せていることは承知している。まずは、現在ある駐車場や周辺の混雑状況等を調査したい。

【議案第 100 号について】

- 森林整備及びその促進に関する事業の財源に充てるため、高岡市森づくり基金を設置するとのことだが、具体的な内容と基金の目的は。
- △ 市内の整備計画が立てられていない人工林約 1,000ha の整備促進を図るものであり、単年度では事業が実施できない場合に、複数年度分の森林環境譲与税をまとめて執行するなど、森林環境譲与税を効率よく活用するために基金を設置する。
- この事業に林道の整備は含まれるのか。
- △ まずは、整備が行われていない人工林についての整備を進め、その後、林道を含むその他の整備を進めていくこととしている。
- 本市への森林環境譲与税はいつから、どれ程の金額が配分されるのか。
- △ 国に一旦集められた森林環境税を私有林人工林面積、林業就業者数及び人口に応じて、森林の整備及びその促進に関する事業を実施する市町村及び都道府県に配分されるものである。令和元年度よりその配分が始まり、元年度の配分額は 1,090 万円の予定である。

【議案第 105 号について】

- I C パーク高岡の整備により、地元企業の雇用創出が期待できると考えるが、見解は。
- △ 市内に拠点を構える地元企業の立地により、企業の市外への流出の抑制や雇用の確保に結びつくものと考えている。また、市外から企業が立地した場合、企業の拠点移転に伴う従業員の転勤や居住等による定住人口の増加、昼間人口の増加が期待できる。雇用をはじめ暮らしに至るまで波及効果が期待されることから、引き続き、I C パーク高岡の早期分譲完了を目指して取り組みたい。
- 直近 3 年間の企業の市内転入及び市外転出の件数は。
- △ 本市が把握している範囲では、平成 27 年度は転入が 83 社、転出が 58 社。28 年度は転入が 81 社、転出が 69 社。29 年度は転入が 68 社、転出が 55 社。それぞれの

年度で転入が転出を上回っている状況にあることから、これまでの地道な企業訪問、各種施策の展開が功を奏したものと捉えている。引き続き、企業の市内転入の促進と転出の抑制に努めたい。

- 企業の転入が増えていることは良い傾向であるが、転出の理由は把握しているのか。
- △ 例えば、企業は工場を建て替える場合、所有する敷地内か新たに土地や居抜き物件を購入することになるが、その際、条件に合う土地や物件が市内に無かったこと等が理由として考えられる。
- 今後の転出抑制のため、土地の購入価格やアクセス面など、転出理由の把握に努めてほしい。(要望)

【議案第 107 号について】

- 本市の財政状況を踏まえたうえで、これまで道路建設に掛かる事業費の抑制にどのように努めてきたのか。また、今後の事業費の抑制にどのように努めていくのか。
- △ これまでは、主に既存道路の拡幅や道路新設などの建設事業に取り組み、交通ネットワークを充実させてきた。今後は整備してきた道路、橋梁などの適正な維持管理に重点を置くこととしたい。

【議案第 108 号及び議案第 109 号について】

- 議案第 108 号の（仮称）戸出西部金屋産業団地南工区敷地造成その 1 工事において、公共用残土を利用したことに伴い、契約金額を減額変更することのだが、議案第 109 号の（仮称）戸出西部金屋産業団地北工区敷地造成工事においても、公共用残土が利用されれば、減額変更されるのか。
- △ 議案第 109 号の（仮称）戸出西部金屋産業団地北工区敷地造成工事の契約金額についても、公共用残土の利用により、減額に資することになったが、その減額幅以上に地盤改良に費用が掛かったことから、増額変更することとなった。

【議案第 112 号について】

- 現在の市道の認定基準は。
- △ 一般交通の用に供されていること、有効幅員が原則として 4.0m 以上であること、道路両側に雨水を受ける側溝を設置することが可能であること、道路としての構造が完備しているか、あるいは完備可能なものであること、道路の両端が既存の公道に接続していること、道路としての権原（所有権）が取得可能であること、道路の占用許可基準に適合しない物件が設置されていないこと等が市道の認定基準である。
- 市道の認定基準を見直すことはあるのか。
- △ 認定基準を変更するということは、これまで認定してきた市道が不適格道路になる恐れがあるため、現状では考えていない。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

## 2 報告事項について

〔都市創造部〕

- 市営高岡駐車場について

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

### 【市営高岡駐車場とまちの賑わいの関係について】

- 現況調査の結果や将来の需要推計を踏まえて市営高岡駐車場の存廃について判断するとのことだが、中心市街地の賑わいとの兼ね合いを考えているのか。
- △ 中心市街地の回遊性を高める狙いで、平成 28 年度から市営駐車場の 1 時間無料の社会実験を行ったが、望ましい結果にはならなかった。この実験結果から、駐車場の存在が中心市街地の賑わいに繋がるといった直接的な関係を見出すことができなかった。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔福岡総合行政センター〕

- 「福岡駅前土地区画整理事業」の事業計画変更について

〈 委員から質疑等は無かった。 〉

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔上下水道局〕

- 平成 30 年度高岡市水道事業等の業務概要及び決算概要について

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

### 【給水栓数について】

- 水道事業において、給水栓数及び水道利用加入金が平成 29 年度対比で増加しているが、これは一戸建ての住宅が増えていることが要因と捉えてよいのか。
- △ 市内の世帯数は増えており、一戸建て住宅やアパート等の建設による増加に伴い給水栓数及び水道利用加入金が 29 年年度対比で増加したと考えている。
- 量水器は住宅 1 戸当たり 1 個の設置か。
- △ 水道利用加入の申し込み 1 件当たり 1 個である。
- 空家等の量水器は取り外されるのか。
- △ 契約者本人が閉栓の手続きをして、長期的に使用しない場合は取り外している。

### 3 閉会中の継続審査について

本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査する必要があるため、会議規則第 104 条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

### 4 その他

#### 。 次回の常任委員会の開催について

7 月 16 日（火）午後 1 時に開催することが報告された。

#### 。 行政視察について

8 月 8 日（木）及び 9 日（金）に実施することが報告された。

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

#### 【万葉のふるさとづくりについて】

○ 新しい元号が万葉集を典拠とする「令和」となり、万葉のふるさとづくりに取り組む本市にとっては、市の P R に絶好の機会と考えるが、見解は。

△ 限られた予算を有効に活用し、観光等の各種事業に取り組んでいきたい。

#### 【越中高岡万葉米を活かした市の P R について】

○ 今後、越中高岡万葉米を活かした本市の P R に更なる取り組みを期待するが、意気込みは。また、越中高岡万葉米の定義は。

△ 高岡で作られたコシヒカリのうち、J A 高岡で集荷し、全農を経由し出荷されたものが富山県産コシヒカリ、J A 高岡で出荷されたものを越中高岡万葉米としている。また、「越中高岡万葉米」で商標登録をされており、袋詰めやパックご飯の「越中高岡万葉ごはん」として商品展開されている。これまでに、ふるさと納税の返礼品の品目に指定しているほか、万葉集全 20 巻朗唱の会において、朗唱者に配布するなど、各種イベントにおいて P R を行っている。引き続き、J A 高岡をはじめ関係機関と連携し、機会を捉えて越中高岡万葉米と安心・安全な高岡産の農作物の P R に努めていきたい。

○ 令和元年のゴールデンウィーク中の万葉歴史館の入館者数が、平成 30 年の同時期の 4 倍と聞いている。食の分野においても、万葉を前面に打ち出し、更なる P R を J A 高岡と連携して進めてほしい。（要望）

#### 【高岡産農作物の地産地消の推進について】

○ 令和元年 10 月から始まる幼児教育・保育無償化の実施に伴い、国の方針に合わせて園児 1 人当たりの副食費を目安として月額 4,500 円に設定することだが、コストだけにこだわらない食育を考えた献立作りが重要と考えている。地産地消を推進している市の所感は。

△ 教育委員会、子ども・子育て課、保育園、その他関係者で平成 31 年 3 月に「第 3 次高岡市食育推進計画」を策定した。その中で、幼児教育・保育無償化の実施に伴

う食材費の取り扱いも含めて検討してきた。引き続き、関係部局と連携して、食育を含めた高岡産農作物の地産地消の推進について、対応していきたい。

- 地元の農産物の品質を低下させないことに留意しながら、教育委員会や福祉保健部と連携し、将来を担う子どもたちへの投資に十分配慮してもらいたい。（要望）

【外国人観光客に対するドラえもん関連スポットへの案内について】

- 新高岡駅を利用する外国人観光客のドラえもん関連のスポットへのアクセスに関する問い合わせが多いと聞いている。中でも高岡駅構内に設置されているドラえもんポストが、Instagramのフォトジェニックスポットとして人気だが、新高岡駅からのアクセスが分かりづらく、城端線で戸出駅に行ってしまう外国人観光客もいると聞く。分かりやすいアクセス方法の掲示が必要と考えるが、検討しているのか。

△ 何らかの対応を検討したい。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔産業振興部〕

- (1) 伏木港開港 120 周年記念事業「開港日記念シンポジウム」の実施について
- (2) 行事のご案内について

〔都市創造部〕

- 第 2 下黒田踏切について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

産業建設常任委員会 当局説明員（３０名）

産業振興部長	川 尻 光 浩	都市創造部長	堀 英 人
産業振興部次長 参事	渡 辺 朋 洋	都市創造部次長	根 上 幹 雄
産業企画課長	新 保 貴 之	都市創造部参事（兼務）	渡 辺 朋 洋
商業雇用課長	表 野 勝 之	都市計画課長	久 郷 聡
観光交流課長	長 井 剛 志	花と緑の課長	有 栖 友 広
農業水産課長	須 田 稔 彦	道路整備課長	橘 茂 徳
農地林務課長	川 渕 利 直	土木維持課長	広 田 利 和
みなと振興課長	中 出 裕 嗣	建築政策課長	日 名 田 尚 明
		営繕課長	小 泉 和 浩
農業委員会事務局長	笹 島 永 吉		
		上下水道事業管理者	黒 木 克 昌
福岡総合行政センター所長	柴 田 文 夫	上下水道局次長	嘉 信 和 昭
福岡総合行政センター次長 地域振興課長	末 坂 進	上下水道局次長 参事	浜 谷 圭 一
産業建設課長	堂 田 康 弘	上下水道局参事	炭 谷 信 之
福岡まちづくり推進室長	池 田 政 弘	総務課長	五 十 里 康 夫
		営業課長	宮 田 修 司
		水道工務課長	寺 井 義 則
		下水道工務課長	熊 本 敬 二
		施設維持課長	島 信 治